

今後の同志社一貫教育

自主自立の人を育てる同志社の教育

海平●この度は総長へのご就任、おめでとうございます。

八田●ありがとうございます。海平さんは同志社中学から高校、大学と、私の後輩ですね。

海平●はい。どの学校でも思い出深い先生方が多いです。例えば中学の田島先生には、新聞を毎日読む習慣をつけていただいたり、日経STOCKリーグで株式投資について学ばせていただいたりして、大変鍛えていただきました。

八田●田島先生は非常に熱い方で、同志社独特の先生です。同志社高校の饗庭先生も非常に熱心な方で、彼とは同志社中学から大学院まで、ずっと同級でした。確か高3を対象にパワーアップセミナーをしていましたね。彼の人的ネットワークを使い、各界の第一線で活躍中の方から講演や体験指導の機会をいただく試みですね。

海平●そうですね。これも饗庭先生だったと記憶していますが、最初の授業からとてもユニークでした。目をつぶってください。今、あなたはこの教室にいます。だんだん、だんだん離れてい

きます。京都から

離れていき、今は近畿地方です。最終的に宇宙まで上

つていき、もう一度自分のところに戻ってくる。自分のいる場所を速くから眺めていろいろな思考をさせる、面白い授業でした。中学に入学後は受験が無いので、丁寧に時間をかけて自分で学びを探していく形の授業が、全体的に多かったと思います。夏休



みに岩を採集して標本を作るとか、シダ科の植物を集めるとか。そういう経験は今でも鮮明に記憶にあります。

八田●同志社に長くいらつしやる先生は、同志社にふさわしい教え方というものを築いておられるのですね。定期的に異動のある公立学校と違い、同志社中高の先生は定年退職までおられますから、長い方は四十数年間勤めておられる。母校に帰るとお世話になった先生がまだおられるのは、私立学校のいいところですね。また生徒の皆さんは仲間と共に同じ教育を受け、同じ行事を経験し、毎日礼拝も守った。そういう面で、同志社内の各学校から来られた方は同じようなアイデンティティーをお持ちなのではないでしょうか。中学校から高校、大学というのは人間的に大きく成長する時期です。ここで受けた教育は卒業後の生き方に非常に大きな影響を及ぼします。卒業生の集まりに行くと、やはり同志社は自由だったと言う人が多いですね。

海平●中高でも、生徒の自主性に任せてくださるのが嬉しかったです。学校行事でも先生方が私たちをできるだけ対等に扱ってくださいだったので、自分たちで一からつくり上げた気になれました。

八田●同志社の自由な学風を示す証拠ですね。海平さん、「母校」とはどう定義したらいいと思いますか。

海平●シンプルに言えば自分が学び、卒業した学校ですけれど、「愛着のある場所」でしょうか。

八田●例えば、予備校は母校と呼べるでしょうか。予備校は確かに教育機関で、新しい知識を教授してくれます。しかし知識を得た場所だからといって、予備校は母校と呼べるかという、やは

良心教育が育むもうひとつの「知」

八田●だから、幼稚園はあまり母校とは呼びませんね。小学校はある程度母校と呼べるかもしれませんが、もっと人格的に成長するのは、やはり中学以降です。そして教育組織である限りは、程度の差はあれ、二つの「知」を教えます。どんな「知」か。一つは知識、knowledge。もう一つの「知」は何でしょうか。

海平●知恵の「知」。

八田●その通りです。知識をどのように応用するのかという、知恵です。自分の将来のためだけでなく、社会のため、大きく見れば国のため、人類のために知識をどのように使うのか。これら二つの「知」を教えるのが、私は教育組織だと思っています。

海平●知識だけがあっても生かせなければ、何にも生み出しませんね。

八田●例えばDNA技術や再生医療の研究について、人類はどこまで進めていいのか。技術の使い方や倫理的問題などを判断するのは知恵の部分です。あなたは経済学部卒業ですね。大学は異なっても、だいたいこの経済学部でも知識は同じ内容を教えます。しかし知恵には価値判断や倫理観の部分が入って

くるから、これを学生にどう教えるかという問題があります。例えば今ここに、1億円のお金がある。マイノリティーの人のために使うか、大多数の人のために使うか。この問いに対して経済学の授業では、何も教えてくれません。1億円をマイノリティーのために使うか大多数のために使うかという決断は、価値判断です。あなたなら、どう使うべきだと思いますか。

海平●大多数のためでしょうか。

八田●もうひとつですね(笑)。それでは、マイノリティーの人のために特別なエレベーターを作るとか、点字の標識を作るようなお金は出てこないのではないのでしょうか。どちらの答えが良い悪いという問題ではなく、これは価値判断ですね。とすれば、価値判断の知恵を教えようとするなら、教育機関が何らかの価値判断の基準を持つ必要がある。同志社はどんな基準を持つているのか。それがキリスト教主義精神で、同志社教育の特徴はそこにあるのです。それが新島襄の言う良心教育です。宗教的基準に基づいた教育や、倫理的、道徳的にこうあるべきだというような教育は、国公立の学校ではできません。

海平●確かにそうです。

八田●これは私学の、国立に比べて優位な点だと思います。私学の特徴はそういう価値判断を教えられるところにある。ある種特別な教育をするから、国立のように国から多額のお金をもらいう立場は、私学にはなじみません。

海平●中高でのキリスト教の授業は、私は非常に印象的で覚えてます。宗教の問題というより、どう生きていけばいいか、生と死とは、愛とは何かという授業でした。愛を、蛇口と器に

中高の職員対象の研修会、総長主催の良心教育シンポジウム。法人としての同志社キリスト教教育委員会も設置していて、各学校の委員がキリスト教主義教育について議論をしています。良心教育の研修では、新島精神とは何かという話もします。創立者の名前がさまざまな場面で出てくる。そのような学校は、早稲田、慶應、同志社あたりでしょう。

海平●一貫教育の学園ならではすね。

八田●同志社は「総合学園」と呼ばれていますが、総合学園の定義は何だと思えますか。例えば日本大学には30くらい附属の高校があり、学生総数は約10万人です。同志社は今、4万3000人くらいです。よく初等、中等、高等という段階の学校が集まったものが総合学園と言われますが、これは定義としては広すぎる。本当の意味での総合学園とは、一貫教育を行っている学園、学校だと思います。一貫教育を私が定義するならば、建学の精神を共有し、その精神のもとで、各学生、生徒の発達段階に応じて行う知恵の教育、人格形成の教育が一貫教育です。それが小・中・高・大と順に引き継がれているのが本当の意味での総合学園、あるいは一貫教育ではないでしょうか。各段階の学校で別々に教職員が教育に寄与するのではなく、まず共通の基盤に立った上で、各段階で教育を行う。それが同志社の特徴だと思います。そういう面で先ほど海平さんが話された田島先生などは、中学生に合うような形で同志社の良心教育を体現しておられると思いますよ。そして高校生になるともう少し人格的にも成長してくるから、また別の方法で同志社教育を行うということですね。

喻えた授業もありました。自分が今まで大きな愛を受けてきたから、今度は皆さんの役に立つ蛇口もいっぱい開けて、自分の器から愛を出そう。でも自分が愛を受け取る器が広くないと、自分も与えることができない。受け取った愛を還元していくお話でした。その時は深く考えたわけではありませんが、その考え方は時間をかけて、自然に自分の中へとしみ込んでいきます。

八田●同志社の先生方がお持ちのキリスト教主義精神には、それぞれ濃淡があります。ただ、私が教職員の方から助言を求められたときは、こう言うようにしています。「自分にとって、つらい方から入ったらいかがですか」と。聖書的に言えば「狭き門から」ということですね。海平さんは狭き門から入っていますか。

海平●KBS京都のホームページにアナウンサーのプロフィール欄があり、私はモットーに「迷つたらしんどい方を選んでみる」と書いています。「狭き門」につながるでしょうか。

教職員一丸となって魅力的な一貫教育を推進

八田●同志社では、多くの場面で聖書の言葉が登場しますね。校舎の名前にも聖書や新島襄の言葉から取られたものがある。

こういうハードウェアだけでなく、ソフトや知恵の部分においても新島襄やキリスト教の精神が現れています。

海平●そういう教育が幼稚園や小学校から行われているわけですね。

八田●この精神を教職員で共有しようという活動も行っています。法人内の幼稚園から大学までの先生が一堂に会する研修会、

海平●高校の饗庭先生がされたような教育ですね。

八田●そうですね。一方で、一貫教育といっても、生徒はずつと同じ仲間が続くわけではありません。途中で多様な人が外部から入り、最終的には大学の段階でさらに多様な人が入ってきて同志社教育を受け、同志社人として出ていく。これも同志社の特徴です。

海平●私も高校時代、外部から入ってきた人たちに教えてもらえることが凄く多かったです。そして、その人たちとまた一緒に大学へあがっていく。そこでもまた、非常に絆が深まりました。

同志社人のアイデンティティーを継承するために

八田●それと、これはよく言うのですが、大学あるいは学校全体の私たち教職員にとつての、評価とは何でしょうか。現在はいろいろな評価基準がありますね。

海平●外からの評価ですか。

八田●目に見える評価という意味では、タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)が行っている大学の評価などが知られています。けれど私たちにとつて一番嬉しく、教職員にとつて目に見える外部からの評価は何だと思えますか。

海平●「いま一番入りたい大学」という評価でしょうか。

八田●それもいいですね。最も嬉しい評価は、卒業生の方々が、自分の受けた教育をまた子どもに同志社で受けさせたいと思ってくださることです。教職員にとつて一番ありがたい評価です。逆に、自分の子を他の大学、学校に行かせると聞くと残念に思うのと同時に、同志社には改善すべき課題がまだまだあるのだ

ろうという反省材料にしています。

海平●いわゆる同志社ファミリーとして、一貫しているのは何代ですか。

八田●第6代目まで同志社というご家族がおられると聞いています。周囲でも、4代同志社というケースはよくおられますね。ありがたい評価です。

海平●私は今30歳なのですが、リアルに感じていることがありますが。同級生たちが結婚、出産ラッシュで、子どもと一緒に同志社に入れようという話にすぐなるんです。親が同志社出身という方も多いですし、そうでない方もおられますが、集まると結構その話になりますね。同志社への思いを強く感じます。

八田●いろいろな段階で、同志社にまた来ていただきたいものですね。そのために、もちろん良心教育で知恵を育むという部分はありますが、最終的には大学に来られますから知識の充実に必要です。これは私の学長時代の話になりますが、社会的な要請に応じて多様な学部をつくりました。私が1998年に学長に就任した時は、神、文、法、経、商、工の6学部でした。それから2004年に政策学部が開設し、翌年には文化情報学部ができ、文学部を改組して社会学部ができました。2008年に

生命医科学部、スポーツ健康科学部、2009年に心理学部。グローバル・コミュニケーション学部が2011年に開設して、グローバル地域化学部が13年にできました。社会的な要請に従って、提供できる知識の幅は広がりました。ただ知恵の部分に関しては、全然変わりありません。同志社教育、特に建学の精神に基づく教育はすべて共通です。しかも現在は学部単位でキャ

八田●知識が得られるだけでなく、人間が交わり、つながっていく。小クラス制は教育のあり方として最善ですね。

海平●濃密な時間でした。

八田●帰属意識という意味では、スポーツ活動も重要だと思えます。例えば結婚披露宴で、新郎が「同志社大学野球部出身です」などと言うと、周囲は笑いますね。「野球部なら、授業に出ていないということか」と。そうではない。私はこう考えます。新郎は同志社大学の学部で知識を得て、野球部では人格形成を行い、知恵を培ったのだと。その経験を誇りに思っている証拠なのだ。そういう面でクラブやサークル活動は、同志社の中では人格形成に寄与するところが大きいと思います。スポーツユニオンでも、卒業生の方々は共通の土壌で得た貴重な経験を認め合い、交流しておられます。

海平●同志社スポーツユニオン（同志社大学体育会のOB・OG組織）の取材に行かせていただいたことがあります。70代、80代の方と現役生が、同じ話題で話をしておられるのが印象的でした。

八田●もちろん体育会以外の人もさまざまな経験をしておられますが、やはり体育会の人は何かを持っているという評価が社会にはあります。私が高野連（公益財団法人日本高等学校野球連盟）の会長を引き受けた理由も、そこにありました。高校野球はプロ野球予備軍の育成をする場ではなく、教育の一環であるという立場が基本です。私は既に大学野球やアマチュア野球の運営に携わっていましたし、大学スポーツの意義について学長としての考えを持っていましたから、それを高校野球の運営

ンパスが京田辺と今出川に分かれていますから、同じ同志社人として卒業してもらうためには、同じ良心教育を受けたという、同じアイデンティティーを持つていただきたい。私はその必要性を強く感じて、京田辺にチャペルを建てるなど、さまざまに工夫してきました。

海平●同志社人としてのアイデンティティーの強化には、いつ頃から積極的に取り組んでこられたのですか。

八田●学長就任直後くらいからです。時代の要請に従って大学改革を進めるのと同時に、知恵の教育が大事であると考えていましたから。もつと言えば、教室で先生が教える部分は本当にわずかで、どこで誰とつき合ったか、どんな本を読んだか、どこに住んだか、これも知恵の形成、あるいは人格形成に寄与する部分は非常に大きいと考えます。

海平●学生生活すべてが同志社教育ということですね。

八田●だとすれば、特に効果的な人格形成ということに関して言えば、どんなサークルに所属していたかも同志社教育の一環だということで、スポーツ、他のクラブ活動、サークル活動に関してもさまざまな支援をすることになりました。海平さんは何かクラブに入っておられましたか。

海平●私はサークルを1年ぐらいでやめてしまい、後は、長く続けていたクラシックバレエとゼミ活動に力を入れました。ゼミは新聞ゼミで、企業ファイナンスなどを学びました。4年次生にもなると、毎日朝から夜までゼミの仲間と一緒にいましたね。日経STOCKリーグやディベート大会の準備などで、議論を戦わせながら毎日を通しました。

に生かせるのであればとお答えしたところ、それで結構ですと言われたのでお引き受けしたのです。野球の監督経験者でもありませんので、素人と言いますが、社会一般での考え方に照らして疑問に感じることを申しあげています。昨夏にも甲子園練習で、ちよつとした騒動がありましたね。

海平●女子マネージャーがユニホームを着てノックの手伝いをしている、大会関係者から制止された件ですね。

八田●その後も、大多数の役員は監督の経験者ですから、女子には危険だ、あの措置は当然だという意見が上がりました。私は社会的常識から考えてそれはおかしいと、30分ぐらい演説をしました。男性にはボールが当たってもいいのか、試合中でもファウルボールがスタンドに飛んで、女性に当たる可能性もあるじゃないかと。高野連に批判や抗議の電話やメールも来た結果、ルールを変えようということになった。男女共同参画の時代です。高野連にも社会的な常識をもう少し入れようということ、今年初めて女性の理事にも入っていただきました。一般の視点、教育者の視点などを反映させるという意味では、会長を引き受けた意義があつたと思います。

同志社総長のミッション

海平●そのような意味では、学長としてのご経験や視点を、総長というお仕事にどう反映していかれますか。

八田●私は大学の学長として、同志社教育を外部に発信しながら、大学教育への社会の要請を受信し、大学づくりを考えてきました。このような不確実性の時代だからこそ、大量に同じ種

類の人物を育てるのではなく、新島裏の考えに基づいて、自分で価値判断ができ、課題設定および課題解決の能力を持った自治自立の人物を同志社が生み出すべきです。それを15年間考え続け、実践してきた経験を、今度は総長として法人内各学校全体の運営に生かしたいと考えています。法人全体をまとめる一貫教育の部分を担当するのが総長です。

海平●具体的なご計画はお持ちですか。

八田●これは既に法人理事会で報告して了承を得ていますが、法人内に一貫教育センターのような部署の設置を検討するプロジェクトチームを発足させることになりました。例えば全学校の先生に、教科別、学科別に集まっていたで教科の話をしていただくと同時に、新島精神について話し合っていた。あるいは全学校でのIT教育を考える、AIを活用して教育をどう変えるのかを考える。あるいはSTEM教育を議論する。STEMとは、Science、Technology、Engineering、Mathematicsの略で、アメリカのオバマ前大統領が提案した教育戦略です。これをもっと積極的に同志社全体で進めるにはどうすればいいか。こういう議論の場が今までは無かったのです。

海平●縦のつながりだけでなく、横のつながりも強化していくのですね。

八田●現在は、横のつながりが各学校の間で希薄です。同志社ブランドを一括管理して、さらに積極的に広報活動を行うことも必要でしょう。これも総長の重要な仕事だと考えていますので、またKBSさんのご協力もいただければと思います。法人内各学校におけるスポーツ活動も、何か横串で通せないかな

彼らを引っ張り、指導する立場にならなくてはいけません。

八田●昔は、学生同士が積極的にぶつかり合うことによって学生文化が形成されたような感じがします。今は新たな学生文化が形成されているのか、あるいは学生気質が変わってきているのか。十年おきぐらいに気質が徐々に変わってきているような感じがします。

海平●現代の学生は内側に熱さを持ってはいても、それを表に見せないのかもしれない。

八田●なるほど。先ほどのSTOCKリーグなど私たちが機会を作れば、学生たちの間に摩擦熱が出て燃え上がると思いますよ。学生たちには普段からでも学内の講演会、研修会、シンポジウム、チャペル・アワーなどに、もっと出席してほしいのですが。

海平●LINEもそうですが、現代は一人でも楽しめたり、他者とつながれたりします。だから自分から出向いて、他者と一緒に行動しようとする機会が減っているのかもしれない。

八田●それなら今度は大学がLINEを使って、学生たちに発信すればいいかもしれませんね。同志社の良心教育をさらに深化、発展させ、もつと社会的にアピールすることが、少子化時代に同志社が生き残る道なのだと思います。

海平●同志社にとって、次の大きな節目は何ですか。

八田●2025年の創立150周年です。キャンパスのいわゆる都心回帰によって、文系学部に関しては環境が良くなりました。それだけで終わるのではなく、不断の変革が必要なのではないでしょうか。幸い、京田辺校地にはまだ土地が十分ありま

と考えているところです。一貫教育のプロジェクトチームができれば、その検討もしていただこうと思っています。

海平●こうして伺っていますと、同志社人育成の教育はどんどん進化しているのですね。

八田●そうでなければなりません。もちろん建学の精神や、新島裏の教育理念は変えてはいけません。ただ、現代風のアレンジは絶対に必要です。私は1967年度生で、当時の大学進学者は全体の約6分の1でした。今はもう2分の1を超えていますから、学生の質も随分変わりました。現代の学生に合った良心教育をする必要があると思います。

海平●最近の学生については、どのようにお感じですか。

八田●携帯電話やLINEによる人間的なつながりは、それも一つのあり方かもしれません。長所もあるのかもしれない。それが普通になると、新たな時代に応じた教育を私たちは構築し直さないといけないのではという反省もあります。ただ彼らにも変わってほしい。そして変わっていく彼らに対応するように、同志社教育もある程度、変えるべきところは変えないといけないのではとも考えています。海平さんの世代は、何世代と言われましたか。

海平●昭和62年生まれなので、「ゆとり世代」の最初です。厳しかった時代を経験された先輩方がすぐ上におられたので、自分では「ゆとり世代と一緒にしないでほしい」と思いながら、先輩方から見れば「ゆとり世代でしょう?」と言われた世代です。尤も、次に私たちが今の後輩を見ると、彼らの積極性や自主性に物足りなさを感じることがあります。今度は私たちが

すから、新たな事業展開が可能です。ご息を同志社に入れたという大勢の卒業生の方々のご期待にお応えできるような教育を発展させ、優秀な人物を輩出するのが私の使命だと考えています。

海平●本日はありがとうございました。(2017年7月31日、有終館にて)

プロフィール

●八田 英二(はつた えいじ)



1949年生まれ。同志社大学院経済学研究科修士課程終了後、米国カリフォルニア大学バークレー校大学院経済学Ph.Dコース修了。経済学部長、同志社大学長、学校法人同志社理事長を歴任し、2017年4月より第18代同志社総長。学外においては、公益財団法人日本高等学校野球連盟にて会長を務める。

●海平 和(うみひら なごみ)



1987年生まれ。同志社中学校、同志社高等学校卒業後、同志社大学経済学部へ入学。2010年卒業、京都放送(KBS京都)へ入社。現在は報道局アナウンス部に所属し、アナウンサーとしてスポーツやニュース番組などを担当する。